

# 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果

令和5年9月25日  
おおい町教育委員会

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### (2) 実施状況

- 【実施日】 令和5年4月18日（火）  
【実施対象】 小学6年生 4校 74名、中学3年生 2校 61名  
【調査内容】 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語<sup>※中学校</sup>）  
質問紙調査（生活習慣や学習環境等）

調査問題はこちらから

調査結果（全国）はこちらから



### (3) 調査結果の取り扱い

本調査により測定できるのは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面である。また、本町小中学校に在籍する比較的少人数を対象にした調査であるため、年度ごとや学校ごとのばらつきも考慮する必要がある。以上のことに鑑み、序列化や競争につながらないように十分配慮するものとする。

## 2 おおい町における今後に向けた改善のポイント

### (1) 教科

#### <小学校国語科>

- 目的に応じ、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること
  - ➔ 文章や図表などで使われている語句で、繰り返し使われている語句や、似たような意味をもつ語句に着目するなどして複数の資料を読む活動を設定する。
  - ➔ 必要な資料を持っている他の児童と資料を読み合うようにしたり、着目するとよい言葉を示して児童と共に資料を読んだりする機会を設定する。
- 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し

使うこと

- 必要な複数の語句を図示したり、メモでまとめたりなど、目的に応じて情報を整理する活動を設定する。
- 情報の整理の仕方について交流する活動を設定する。
- 必要なことを質問しながら聞くこと
  - インタビューなどをする際に、目的や聞きたいことを明確にしておくなど、質問しながら聞くときのポイントを確かめる活動を設定する。

### ＜小学校算数科＞

- 図形の観察や構成などの活動を通して、図形の意味や性質を考えること
  - 図形を観察したり操作したりする活動の中で、改めて、図形を構成する要素や関係に着目したり、図形の意味や性質を考えたりできるようにする。
- 計算の仕方を具体物や図を使って表し、式と関連付けて考えること
  - 計算の仕方について具体物や図を使って表したり、具体物での操作過程や図で考えた結果を式に表したりする。また、それらを互いに説明し合う活動を設定する。
- 割合について日常生活の場面とつなげて理解できるようにすること
  - 日常生活で目にする割合(百分率など)について、基準量を自ら決めて、それに対する比較量を考える活動を設定する。
- 問題解決の過程で、自らの思考をアウトプットしたり振り返ったりすること
  - 対話や振り返りを重視した児童主体の授業づくりを意識する。また、そのための場づくりを工夫する。

### ＜中学校国語科＞

- 目的や状況を意識した上で、質問の意図を伝えたり、適切な機会を捉えたりすること
  - 実際にインタビューをする学習の中に、共通の目的や状況を設定し、それらに応じた質問の仕方や内容、適切なタイミングなどを検討する活動を行う。
  - 振り返りの際に、録画したインタビューの動画を視聴するなど、ICT機器を活用する場面を設定する。
- 構成や展開、引用や事例の示し方、文末表現や文体などに着目し、それらの工夫が文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのような効果があるのかを考えること
  - 表現の仕方に着目しながら一つの文章を読み、文章において見られた表現の特徴や工夫が他の文章でも見られるかを確かめる活動を行う。
  - 二つの文章を同一の観点で比較して特徴や工夫を見だし、その効果を考えたりする活動を設定する。
- 伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること
  - 推敲する前と後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明する学習活動を行う。また、その効果を読み手の立場に立って確かめさせる活動を設定する。

### ＜中学校数学科＞

- 数の集合を捉え直し、自然数や整数の意味を理解できるようにすること
  - 数の範囲を正の数と負の数にまで拡張して、数の集合を捉え直す場面を設定し、

新しく捉え直した数の集合の定義に基づいて、自然数や整数を判断する活動を設定する。

- 数学的活動を通して、関数関係を理解・判断し、問題解決に活かすこと
  - ➔ 具体的な事象の中から伴って変わる二つの数量を見出し、それらの特徴を表や式などに関連付けて捉えたり、目的に応じて表、式、グラフで表現したりする活動を通して、身の回りの事象を考察する。
- 予想した事柄について成り立つ理由を筋道立てて考えたり、問題解決の過程を振り返って本質を見い出したりできるようにすること
  - ➔ 問題解決の結果や過程、見出した数や図形の性質などについて説明し合う機会を設定し、数学的な表現を用いて簡潔明瞭的確な説明ができるようにする。

### <中学校英語科>

- 社会的な話題について、短い文章の要点を捉え、自分の考えやその理由などを適切に表現できるようにすること
  - ➔ 繰り返し用いられている語句や同じ内容を言い換えている表現、文章中の問いかけなどを手掛かりにして最も大切な語句や文を選んだり、段落内の文章の構成を把握したりする。
  - ➔ 読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を継続的、計画的に行う。
- 文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉えることができるようにすること
  - ➔ 語と語の関連や代名詞、接続表現などを手掛かりにしながら、段落内の情報の関係を正確に把握できるようにする。また、各段落の主な内容を関係付け、文章全体の大まかな内容を捉えることができるようにする。
  - ➔ 読んでいる英文の題材に応じて様々な概要の捉え方を指導する。

## (2) 生活習慣や学習環境等

### <小学校>

- 「学校に行くのが楽しい」「友達関係が充実している」「普段の生活でも幸せを感じる」とする児童が多く、学校生活や日常生活が充実している様子が見られる。また、「自分にはいいところがある」「先生は自分の良さを認めてくれる」との回答が多いことから自尊心や自己有用感が育っていると考えられる。さらには、「人を助ける」「いじめはいけない」「人の役に立ちたい」と考える児童が多く、規範意識が高い傾向が見られる。
- 授業については、多くの児童が「国語、算数、英語の勉強は大切で、将来役立つ」と考えており、「授業で学んだことを他の学習で生かしている」との回答も多い。また、ICT機器の活用については、授業における活用機会が増え「効果を感じている」との回答が多くなっている。なお、新聞を読む習慣や読書習慣定着には課題があり、取組をはさらに改善していく必要がある。

- ▶ 家庭生活においては、「朝食を毎日とっている」「就寝・起床の時刻が一定」との回答が多く、基本的な生活習慣が定着している。家庭学習では、「自分で計画を立てて勉強していると答える」児童が多い一方で、「平日や休日の家庭学習の時間が少ない」傾向にある。学習習慣について、特に時間の使い方を自分で見直し考えさせることが必要である。

### <中学校>

- ▶ 「人の役に立ちたい」「いじめはよくない」等の項目で肯定的な回答が多い。また、「友達関係に満足している」「学級生活をよりよくする努力をしている」という回答の割合が高く、友達と良好な関係を築き学校生活を充実させようとする姿勢がうかがえる。一方で、「よいところを認めてくれる」「困ったとき相談できる」等、教職員の関わり方に課題があり対応に留意していく必要がある。
- ▶ 学習については、生徒の多くが国語、数学、英語において「大切で、将来役立つ」と考えている。また、「ICT 機器の活用は勉強に役立つ」「課題の解決に向け自ら考え取り組んでいる」と回答した生徒が多い。新聞を読む習慣や読書習慣はやや改善傾向が見られるが、割合は高くない。さらに改善に向け取り組んでいく必要がある。
- ▶ 家庭では「朝食をとる」ことや「定時に就寝、起床する」ことなど、基本的な生活習慣は定着しているが課題のある生徒もいる。家庭での学習時間は、休日において少ない傾向にある。自分の生活を振り返らせるとともに家庭の協力を得ながら健やかな成長へとつなげる取組を引き続き行っていかなければならない。

## 保護者の皆様へ

---

おおい町教育委員会では、これまで、学校施設や備品、人員配置の充実等、教育環境の整備に努めてまいりました。

また、各学校において、児童生徒理解が進み授業をはじめとする教育活動が充実するよう指導を行うとともに学校間の連携を進め協働的に課題解決がなされるよう支援も行っていきます。

今回の全国学力・学習状況調査の結果を受け、今後もさらに子どもたちが健やかに成長していけるよう努めてまいります。

おおい町全体の状況については、ここに述べたとおりですが、各小中学校からも状況が報告されます。保護者の皆様におかれましては、ぜひそれを参考にさせていただきたいと思っております。

調査からは、毎回、子どもたちの家庭における生活習慣や学習習慣と各教科の平均正答率には相関関係があるという傾向が見られます。ご家庭においても、生活のリズムや学習の習慣についてお子さんと話し合う機会をもち、実践していただきますようお願いいたします。

目指す子どもの姿を家庭や地域と共有しながら、心身ともに健やかな子どもの成長を支えていけるよう、これからも、家庭・地域・学校による連携を強化していきます。ご理解とご協力をお願いいたします。